

# 平成29年度 事業報告

社会福祉法人 広虫荘

## I. 社会福祉法人本部

### 1. 法人事業の実施状況

平成29年度は、改正社会福祉法の下に新たな体制を構築し、経営を行なった。しかし、各事業については、介護報酬改訂を前に利用者や職員の人材確保についても非常に厳しい状況であり、全体的な収支へ影響を与えた。

#### (1) 理事会・評議員会の開催

理事会および評議員会の組織について、国の基準にあわせ人選方法から会議の開催まで見直し、定款に位置づけるとともに組織強化を行なった。

##### ①理事会（6名）の開催

5月・6月・7月・9月・12月・3月の年6回開催

##### ②評議員会（7名）の開催

6月・1月・3月の年3回開催

##### ③会計監査の実施

監事による監査 5月に実施

##### ④評議員選任・解任委員会（5名）

平成29年度は、開催なし

#### (2) 経営会議・運営会議の開催

今年度より、理事長を中心に常務理事・各施設長による経営者会議を月1回開催し、事業執行上の重大かつ具体的な問題や課題に対処するとともに中期的な経営計画を検討した。事業部門の運営管理は理事長・常務理事の参加の下・各施設長・各事務長・各サービス課長により構成される管理者会議を月1回開催し、各事業の進捗状況や運営状況を報告するとともに迅速な意思決定に基づく合理的・効率的な事業執行を行うことができた。今後も継続する必要あり。

#### (3) 財務・会計業務

会計基準にもとづく会計処理を行い、予算および入金管理等堅実な会計処理を行うとともに資産の安定的な管理をおこなった。

#### (4) 人事労務

労働法令等を遵守する中で「育児・介護休業等に関する規則の改定」「有期雇用労働者の無期転換制度の導入」を行い、労働諸条件および人事労務制度の適切な見直しを行った。また、「正規労働者転換規定」の導入から3年目となり、1名の職員を正規職員に転換させた。

#### (5) 職員教育

新人研修・・・15名（4月1日、3日実施）

合同研修・・・12回

介護福祉士実務者研修・・・1名（岡山ひまわり校実施を受講）

介護職員等の喀痰吸引研修（第2号研修）・・・6名

また、職員の資格取得支援として奨学金制度を創設し、介護福祉士実務者研修受講者1名に対して貸与をおこなった。

#### (6) 施設整備・管理

和気広虫荘の老朽化にともない、ZEB実証事業（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル実証事業）の採択を受け、省エネルギー対策工事をおこなった。また同時に建物・設備の保全・修理をおこなった。耐震工事については、引き続き検討する。

#### (7) 防災対策(危機管理)

今年度初めて特別養護老人ホーム広虫荘にて、赤磐市くらし安全課の立ち会いのもと土砂災害を想定した「避難準備・高齢者等避難開始」情報に基づく避難誘導訓練を行なった。近隣の小学校への避難であったが、予想されたとおりの多くの時間が必要となることがわかった。行政の情報発信から避難までのタイムラグを少なくするため、今後も継続する必要あり。

#### (8) 合理的な事業展開のため事業所編成を検討する。

## II. 介護保険事業（介護予防事業等含む）の状況

### 1. 個別ケアの充実とサービスの質の向上。

○入所者の状況や本人・家族の希望に沿い提供する介護サービスの内容を定めた介護サービス計画（ケアプラン）は、実現可能な計画が重要であり、半年に1回ケアプラン検討会議を開催し見直しを行った。また、毎日の申し送り時に問題等があると認められる場合又は、本人及び家族からの申し出により、随時ケアプランの見直しを行い、本人・家族の意向に沿うケアプランの作成に努めた。

○ケアサービス向上の為、職員研修の実施(OJT、OFF-JT:各事業所内研修(月1回)、法人内研修(月1回))、また外部研修への参加促進、自己啓発研修の情報提供を行った。

### 2. 防災計画の充実

○災害の予防を図り、万が一の災害時には被害を最小限に食い止めるため、各種の防災訓練（年2回）や整備点検を行った。

今年度初めて特別養護老人ホーム広虫荘にて、赤磐市くらし安全課の立ち会いのもと土砂災害を想定した「避難準備・高齢者等避難開始」情報に基づく避難誘導訓練を行なった。

○事業継続計画（BCP）については今年度作成できなかったため、引き続き検討を行う。

### 3. 地域との連携強化

○地域住民の方々にも参加頂ける夏祭りを開催した。（広虫荘）

○近隣地域のサロン会、「くまカフェ」への参加（年2回）や家族・地域住民と情報交換会（年2回）を行うことで、PRの機会が広がった。（広虫荘）

○地域の社会活動への一環として、ケアカフェを、ケアハウス・グループホームと共同で毎月1回開催し好評を得た。（和気広虫荘）

○ボランティア・実習生などに対し、社会活動実践の場を積極的に提供した。

○市社協出前講座……2回(山陽東小学校、磐梨小学校)

	広虫荘	和気広虫荘
旭川荘厚生専門学院	2名	1名
就実大学(教員養成)	2名	
中学生夏ボラ体験(磐梨中)	2名	
施設交流学習(磐梨小)	14名	
中国学園大学(栄養士)		1名
IPU(教員養成)		1名
合計	20名	3名

#### 4. 次世代を担う職員の人材育成及び確保

- 職員のキャリア・アップを推進・支援していく役割を担うアセッサー講習に、両施設より1名づつの受講を行い、人材の育成に努めた。しかし、キャリア段位取得までには至っていない。今後、職員のスキルアップに向け、キャリア段位取得のみならず、人材養成について検討する必要がある。
- 内・外部における研修(認知症実践者研修・リスクマネジメント研修、生活相談員研修等)に参加し、社会福祉に関する知識や技術・一般常識等養い、専門的知識・技術の向上をおこなった。
- 今年度は、就職面接会等への介護職員等の参加を行うことで、自ら次世代の職員を獲得する意欲を養成した。特にハローワークや県社協主催の就職面接会だけではなく、高校生対象の就職セミナーや企業合同紹介会に参加することで、来年度新規採用者を獲得することができた。

#### 5. 安定した経営を行う

- 稼働率97%を目標に1年間運営したが、2つの特別養護老人ホームでは目標の達成ができなかった。グループホーム、ケアハウスについては、目標達成ができた。
- 健康管理・事故予防に務めたこと。また、インフルエンザ・ノロウイルス等の注意報・警報時期での荘内感染者は数名いたものの、広く拡散することはなく終焉できた。
- 今後もより一層、営業努力・サービスの質の向上・利用者の満足度の向上を目標に経営努力を行うことが必要である。

### (Ⅱ-1) 特別養護老人ホーム広虫荘・広虫荘短期入所生活介護事業所・デイサービスセンターひろむし

開設：昭和45年5月1日 開設  
種別：介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) / 定員：110名  
短期入所生活介護事業 / 定員：4名  
(4人部屋10室、3人部屋7室、2人部屋21室、個室11室)  
通所介護事業 / 定員：19名 / 1日  
構造・面積 鉄筋コンクリート5階建  
建物面積 / 4,547.87㎡

① 介護老人福祉施設 年間の利用者状況

	延べ利用人数						平均 介護度	日 数	利用率 %
	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計			
当年度	2,070	8,026	7,520	11,662	6,757	36,035	3.0	365	89.75
前年度	2,214	6,535	8,341	11,840	7,103	36,033	3.4	365	89.75
比較	△144	1491	△821	△178	△346	2	—	—	0

② 短期入所生活介護事業 年間の利用者状況

	延べ利用者数						平均 介護度	日 数	利用率 %
	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計			
当年度	164	172	269	21	205	831	2.9	365	57.33
前年度	125	262	302	112	60	861	2.7	365	58.97
比較	39	△90	△33	△91	145	△30	—	—	△1.64

③ 通所介護等事業 年間の利用者状況（延べ利用人数）

	要支援		要介護					計	1日 平均
	1	2	1	2	3	4	5		
4月	4	5	56	46	35	13	40	199	8.0
5月	4	18	56	43	39	14	45	219	8.1
6月	5	17	58	30	38	0	58	206	7.9
7月	4	15	62	30	59	0	61	231	8.9
8月	5	17	63	32	61	0	63	241	8.9
9月	4	17	85	34	61	0	54	255	9.8
10月	4	17	98	25	62	3	55	264	10.2
11月	5	17	88	22	60	6	57	255	9.8
12月	6	17	84	21	61	5	58	252	9.7
1月	6	10	86	16	54	4	56	232	9.7
2月	4	5	92	10	55	3	46	215	9.0
3月	5	0	123	9	60	23	27	247	9.1
計	56	155	951	318	645	71	620	2,816	9.1
前年度	53	127	446	466	778	155	431	2,456	6.6
比較	3	28	505	△148	△133	△84	189	360	2.5

④ 職員の状況

平成 29 年 3 月 31 日現在

	施設長	事務長		事務員	相談員	介護支援専門員	看護職員	介護職員	機能訓練指導員	栄養士	調理員	介護員(掃除・洗濯)	夜警員	嘱託医
特養	1	1		2	2	5	6	42	1	4	7	5	2	1
通所介護					4		1	4						

○資格等の取得状況（複数の資格を持つ職員もいます。）

社会福祉士 3名 介護支援専門員 9名 介護福祉士 27名 社会福祉主事 6名  
 管理栄養士 2名 調理師 2名 基礎研修 12名（旧ヘルパー2級含む）

(II-2) 特別養護老人ホーム広虫荘等の総括

○特別養護老人ホーム広虫荘の年間稼働率 97%を目標に運営を推進したものの、最終的には 89.75%となり昨年同率であった。上半期の平均は 87.8%で平成 28 年度からの稼働率低下が尾を引き、新規入所者を効率よく入所まで導入することができなかった。

しかし、下半期の平均は 91.7%となり、相談部門の強化と効率化を行った結果大幅な稼働率アップを図ることができた。また、年度後半にかけ契約解除・退所者が増加し、稼働率の伸びにはつながらなかったものの、年間実入所者数については、昨年度比 12 人増であり、素早い新規受入れができたと思われる。

年間の入院者数は、延べ約 1,524 人で、昨年同様低い推移であり、日々の健康管理と予防に努めている効果がでていいる。入院者を含む年間入居率は、93.6%（上半期 92.6%・下半期 94.5%）であった。

○経費節減を目標に掲げたが、空調設備故障、スプリンクラー設備の凍結破損等の計画外の修繕や更新が相次ぎ、修繕費が大幅に増加した。

○通所介護事業所では、介護保険制度の通所介護事業と市町村総合事業の介護予防通所介護相当サービスの 2 本立てで実施した。

目標の平均利用者数は、10 人/日としていたが、年間平均は 9.1 人/日であった。しかし、前年度比 2.5 人/日増加しており、確実に利用率が上昇している。

また、年間を通して、ほぼ右肩上がりの推移で、年度当初 8.0 人/日であったが、年度途中で 10.2 人/日と目標値を越える月もあった。

年間の行事については、四季折々の歳事だけでなく、文化祭や岡山フェアなど利用者と一緒に実施できる行事を企画した。

次期は介護保険の制度改定があるが、利用者のニーズに合わせてながら、さらなる効率的な事業運営を目指したい。

○利用者の声に積極的に耳を傾け、小さなニーズも拾い出し、利用者が施設内での暮らしを快適に継続できるように常に環境整備に配慮し、且つ、終末期を迎えるにあたっては、本人はもとよりご家族が安心して寄り添えるよう看取り介護の体制を推進した。今後は加算算定を目標に取り組む必要がある。

(Ⅱ-3) 特別養護老人ホーム和気広虫荘・和気広虫荘短期入所生活介護事業所・ヘルパーステーションわけひろむし

開設：昭和51年5月1日  
 種別：介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）／定員：100名  
 短期入所生活介護事業／（空床型）  
 （4人部屋19室、3人部屋1室、2人部屋10室、個室1室）  
 構造・面積：鉄筋コンクリート1階建（一部2階建）  
 建物面積：2,377㎡

① 介護老人福祉施設 年間の利用者状況

	述べ利用者数						平均 介護度	日数	利用率
	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計			
当年度	1,132	2,928	8,386	13,701	6,973	33,120	3.67	365	90.74
前年度	1,095	3,234	8,247	14,419	7,380	34,375	3.69	365	94.18
比較	37	△306	139	△718	△407	△1,255	△0.02		△3.44

② 訪問介護事業 年間の利用者状況（延べ人数）

	要支援		要介護					計	延べ 訪問時間
	1	2	1	2	3	4	5		
4月	41	48	164	8	17	10	0	288	281:12
5月	44	56	158	8	18	9	0	293	286:10
6月	52	52	171	21	16	8	0	320	308:24
7月	59	50	177	8	17	10	0	321	309:58
8月	53	42	188	9	15	8	0	315	305:24
9月	48	37	192	5	17	9	0	308	298:06
10月	49	40	141	13	17	10	0	270	264:14
11月	48	44	124	12	18	0	0	246	239:48
12月	43	33	115	14	14	0	0	219	213:08
1月	39	28	105	12	16	0	0	199	194:26
2月	37	29	93	12	16	0	0	187	181:35
3月	17	34	64	9	0	0	0	124	118:21
計	530	493	1,692	131	180	54	0	3,090	2300:46
前年度	473	787	1,562	197	285	44	80	3,428	3,482:10
比較	57	△294	130	△66	△105	10	△80	△338	△1181:24

③ 職員の状況 (内は、派遣職員)

平成 30 年 3 月 31 日現在

	施設長	事務長	サービス課長	事務員	生活相談員	介護支援専門員	看護師	介護職	機能訓練指導員	栄養士	調理員	掃除・洗濯員	夜警員	嘱託医
特養	1	1	1	1	3	1	6 (1)	37 (1)	1	3	8	1	2	1
訪問介護								7						
ケアハウス					1			3			1			
グループホーム								13						

○資格等の取得状況 (複数の資格を持つ職員もいます。)

社会福祉士 3名 介護支援専門員 10名 介護福祉士 36名 社会福祉主事 5名  
 管理栄養士 2名 調理師 4名 基礎研修 0名 ヘルパー2級 12名

(II-4) 特別養護老人ホーム和気広虫荘等の総括

○和気広虫荘の適正な収入の確保として、特養の年間稼働率 97%を目標に運営推進してきたが、年間入院者数 2,441 名 (前年度比 1.67 倍) により、90.8% (上半期 91.6%・下半期 89.9%) となり、昨年より 5%下まわった。入院者を含む年間入居率は、97.4% (上半期 98.0%・下半期 96.9%) となり、入院者の減が稼働率増加の早道と思われる。

○法人理念に基づき、公共的・公益的かつ信頼性の高い運営及び経営を実践し、施設の役割として、経営能力の更なる向上に努めた。  
 重度化に対応するため、施設内での医療的ケアや、増加する認知症の方への対応など状況の変化に対応したサービスを提供した。

○利用者の声に積極的に耳を傾け、小さなニーズも拾い出し、利用者が施設内での暮らしを快適に継続できるように常に環境整備に配慮し、且つ、終末期を迎えるにあたっては、本人はもとよりご家族が安心して寄り添えるよう看取り介護の体制を推進した。

○経済産業省の Z E B 実証事業に採択され施設整備 (空調設備・照明設備・断熱整備) を行うと同時に、施設内環境整備も合わせて行った。

○防火設備 (スプリンクラー) の埋設配管破損により、修繕費が増大した。

○訪問介護事業では、訪問介護員の高齢化と人員確保も難しいことから、平成 30 年度の制度改定を見据えて今後の活動の見直しを行った。事業実施地域の見直し及び、事業活動の中止も含めて検討したが、実施地域を和気町内のみの活動とし、平成 29 年末より前倒しでおこなった。

## (II-5) グループホームひろむし

開 設：平成 13 年 4 月 23 日  
種 別：認知症対応型共同生活事業 入所定員：18 名（個室 18 室）  
面 積：250.62㎡（ユニット1） 248.84㎡（ユニット2）

### ① 年間の利用者状況

	述べ利用者数						平均 介護度	日数	利用率
	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計			
当年度	2,483	1,405	2,316	72	0	6,276	1.9	365	96.50
前年度	2,603	2,010	1,272	114	166	6,165	2.0	365	93.84
比 較	△120	△605	1,044	△42	△166	△111	△0.1		2.66

## (II-6) グループホームひろむしの総括

- 今年度の入所の状況は、新入居者 7名・退去者5名、入院者は年間 222人(前年度対比△35%)となり、利用者稼働率は96.5%となった。
- 運営推進委員会については、年6回開催した。
- 和気町地域密着連絡協議会には(年6回定期的に開催)、毎回出席し研修、情報交換等を行い、連絡も密に取り合っている。
- 家族会(年2回)、地域ケアカフェ(月1回)、その他の行事等は予定のとおり実施できた。
- ご家族や地域の方々の理解、協力を得て、ご利用者様の意思を尊重し、個々にあった生活ができるよう支援を行い、また職員研鑽を積みよりよいサービスの提供ができた。



## (Ⅱ-7) ケアハウスわけ

開 設：平成 13 年 4 月 23 日  
種 別：軽費老人ホーム 入居 定員：30 名  
構造・面積：鉄筋コンクリート造 3 階建 8611.45 m<sup>2</sup>  
全室個室 (30 室)

### ① 年間の利用者状況

#### 当年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者	867	844	878	899	895	871	928	886	887	899	821	829	10,504
入居	1	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6
退去	1	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	6

#### 前年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者	870	890	862	868	872	851	875	890	893	868	738	865	10,342
入居	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	3
退去	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	4

## (Ⅱ-8) ケアハウスわけの総括

○入居者の平均年齢が 85.0 歳と高齢化が進み、入院者も 12 名(延べ 345 人)となった。新入居者 6 名、退去者 6 名により、利用者稼働率は、95.9%となった。

○特養・グループホームと共同で、月 1 回の地域ケアカフェ、その他年間行事等は予定のとおり実施できた。

○防火設備 (スプリンクラー) の埋設配管破損により、修繕費が増大した。